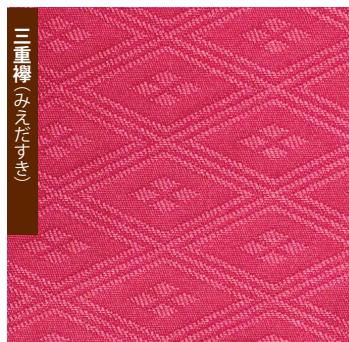


今年も三月物、五月物の商戦が迫つてまいりました。この連載をお読みくださっている方の中には、店頭に立たれている販売員の方も多くいらっしゃると思います。

今回は文様のテーマを絞らず、監修者・松井幸生さん（株式会社誉勘商店代表）に、節句人形の衣裳によく使われる文様を16種選んでいただき、解説をお願いしました。「見たことはあるけれど、名前までは知らないな」という文様もあるかと思いますので、ご理解の一助になれば幸いです。



女子の襷



袍の諸家通用文



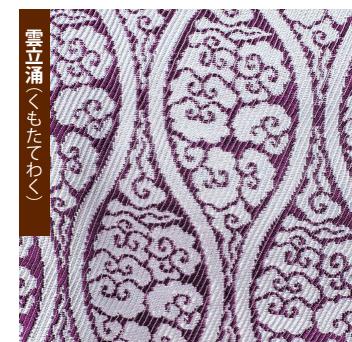
皇太子の袍文



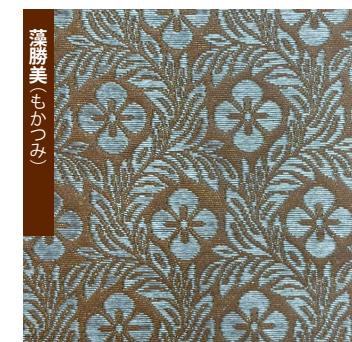
天皇だけが着用する禁色。黄櫨染御袍



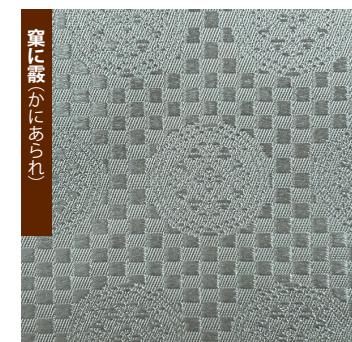
男子の単。唐衣の襟



親王の指貫



絵巻物によく出てくる袍文



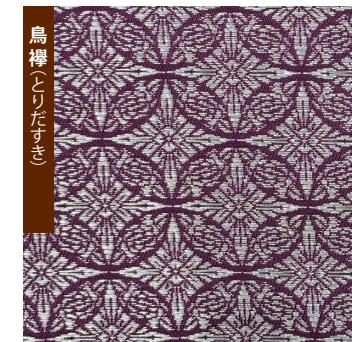
天皇が晴れの日に着用する表袴に使用



女子の単と襷



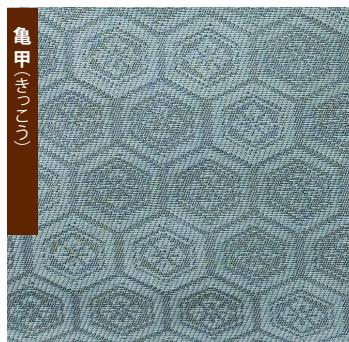
下襷、冬の直衣*。浮線綾とも言う



若年者の指貫**



公卿が着用する直衣。天皇の直衣は全体が白一色の生地で仕立てられる



地文に多く用いられる



指貫



袍の諸家通用文



女性皇族の表着

その柄の意味、知っていますか？

文様を学ぶ

装束に欠かせない文様の知識。有職故実から生まれた有職文様の数は数え切れない。文様の魅力を深掘りする連載。特別編では案内人が人形の衣裳によく使う文様16選を紹介します。

解説

指貫(さぬきぎ)
ゆったりとした作りとなっている袴。履きやすさを重視している。
直衣(のうし)
天皇、皇太子、親王、および公家の平常服。普段着。

参考文献 八條忠基著『有職文様図鑑』(2020年、株式会社平凡社)

裂地画像提供 株式会社誉勘商店



監修者

文様の案内人 松井幸生さん



1962年京都府生まれ。株式会社誉勘商店社長で金襴織物・裂地の製造卸商を営む。1751年創業、誉田屋勘兵衛から数えて13代目。「にんぎょう日本」では連載「教えて先生！日本人形の衣裳にとことん迫る」の監修者として活躍。京人形商工業協同組合理事。平成12年伝統的工芸品産業審議会臨時委員任命。翌年、伝統的工芸品産業の経済産業大臣賞を受賞した。